

作業療法学科

石岡 俊之 准教授

【研究分野】 行動神経科学、作業療法学、脳科学
 【キーワード】 中枢神経疾患、メンタルヘルス、地域住民、神経基盤
 【URL】 <https://researchmap.jp/ishioka/?lang=japanese>



自分らしく社会で活躍するために

研究概要

その人らしく社会で活躍できる支援方法を開発するために

- 1) 行動神経科学、心理学、脳科学の手法を用いて疾患の徴候や障害の機序を解明する。
- 2) 解明した徴候や障害の機序を応用した評価方法・支援方法の開発する。

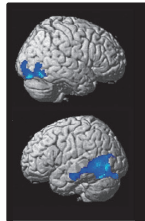
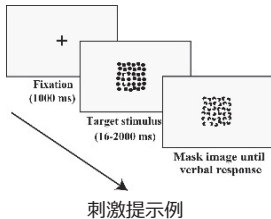
ことを主の目的とした研究を行っております。

中枢神経疾患（脳血管障害や神経変性疾患など）を有した人や地域住民を対象に研究しております。最近では、発達に不安がある児童を支援するための研究や新型コロナウイルス（COVID-19）環境下によるメンタルヘルスの調査研究も進めております。

研究紹介

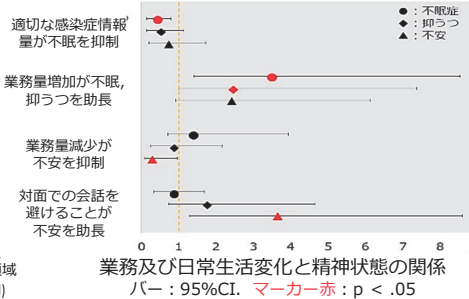
パーキンソン病患者に主観的輪郭検査とFDG-PETを実施して、高次視覚皮質機能低下と関連した主観的輪郭知覚の困難さを解明。

Ishioka et al., Neuroimage: Clinical. 2021



主観的輪郭知覚閾値と関連した脳糖代謝低下領域 (p < .05, uncorrected)

COVID-19拡大下で日本の作業療法士のメンタルヘルス(MH)と生活の変化との関係を調査。Ishioka et al., AJOT. 2021



講座テーマ紹介

中枢神経疾患の運動症状や非運動症状の最新の知見や支援方法についての講座

- ・ リハビリテーション専門職や医療保健福祉領域で活躍されている皆様を対象とした実践で役立つ内容をお話します。

加齢や認知症の特徴や生活習慣との関係性についての講座

- ・ 地域住民の皆様や企業での研修会など参加者の希望に添った内容をお話します。

アピールポイントなど

対象者の行動特性の神経機序の解明や根拠に基づいた臨床実践に興味がある研究者、臨床家は御連絡ください。対象者の社会生活の質向上に向けて本学のNIRSやHMDを活用した共同研究や大学院への進学など要望に添った形で共に研鑽していきましょう。

「作業療法神経科学研究会」を2014年に発足し、研究職と医療職との橋渡しの活動もしています。 <https://www.ot-neuroscience.com>

